

松本清張朗読劇シリーズ

『或る「小倉日記」伝』

日本を代表する作家（一九〇九―一九九二）松本清張。作品は、今なお人気が高く、映画、テレビドラマでも繰り返し上演され、幅広い層に親しまれています。前進座でも『いびき』『左の腕』『文五捕物絵図』などの作品を舞台化し、上演を重ねています。

清張先生は戦前から前進座の映画をみられ、心からのファンとなり、戦後の前進座の苦闘を見つめて来られました。一九六八年には大佛次郎・海音寺潮五郎・井上靖・水上勉氏とともに前進座を応援し次代を育てる会「矢の会」を発足させていただきました。

この朗読劇シリーズは、北九州市立松本清張記念館友の会の主催で、二〇一五年から毎年一作品ずつ創り上げてきました。記念館の野外ステージでの公演は、年を追うごとにファンが増え、近年では満席の盛況です。北九州市民劇場では初めての公演となります。

歌舞伎ことはじめ

歌舞伎は私たちの祖先が独自の様式を創り出し、庶民に愛されてきた世界に誇る日本の宝です。二〇〇九年には、ユネスコ世界無形文化遺産に登録されました。前進座は今日に生きる歌舞伎の創造を目指して、歌舞伎を上演する唯一の独立劇団として活動しています。今回は、歌舞伎の決まり事、立廻りに女形、音楽や舞台機構のことなどを楽しく解説いたします。



北九州と縁の深い前進座は今年 90 周年！

北九州市民劇場会員の皆さんでお祝いしましょう！

江戸時代から続いた歌舞伎も、明治に入ると世界的な近代演劇運動の流れの影響を受け、古い因習から離れて、新しい歌舞伎創造団体が 1931 年に誕生。それが「前進座」です。

前進座は、地方後援会、新聞社等の応援を受けながら全国を巡演。北九州市では、1949 年に働く人々による実行委員会で初めて公演が行われました。北九州でも前進座を応援した人たちは俳句の横山白虹氏など数々。そして、松本清張氏は、今も続く前進座の「矢の会」の名付け親です。北九州市民劇場では、30 回を超える例会を迎え、昨年は『東海道四谷怪談』という素晴らしい作品に出会いました。